



平成21年3月期 第1四半期決算短信

平成20年8月4日

上場会社名 アイカ工業株式会社

上場取引所 東証・名証一部

コード番号 4206

URL <http://www.aica.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 渡辺 修

問合せ先責任者 (役職名) 取締役総合企画部長 (氏名) 堀田 益之 TEL (052)409-8261

四半期報告書提出予定日 平成20年8月14日

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第1四半期の連結業績 (平成20年4月1日～平成20年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第1四半期	20,486	—	1,397	—	1,522	—	841	—
20年3月期第1四半期	22,561	0.2	1,929	△10.1	2,017	△9.2	1,177	△3.0

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第1四半期	12.68	12.68
20年3月期第1四半期	17.74	17.74

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
21年3月期第1四半期	86,087	66,776	76.8	995.97
20年3月期	88,078	66,744	75.1	996.07

(参考) 自己資本 21年3月期第1四半期 66,115百万円 20年3月期 66,122百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	15.00	—	13.00	28.00
21年3月期	—	—	—	—	—
21年3月期(予想)	—	15.00	—	15.00	30.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 : 無

3. 平成21年3月期の連結業績予想 (平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期連結累計期間	46,600	—	4,250	—	4,400	—	2,500	—	37.66
通期	98,000	2.1	9,800	2.7	10,000	2.3	5,700	5.7	85.86

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 : 無

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ー社(社名) 除外 ー社(社名)
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
(注) 詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)
- ① 会計基準等の改正に伴う変更 : 有
② ①以外の変更 : 無
(注) 詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。
- (4) 発行済株式数(普通株式)
- | | | |
|----------------------|-------------|-------------------------|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) | | |
| 21年3月期第1四半期 | 69,890,664株 | 20年3月期 69,890,664株 |
| ② 期末自己株式数 | | |
| 21年3月期第1四半期 | 3,508,099株 | 20年3月期 3,507,117株 |
| ③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) | | |
| 21年3月期第1四半期 | 66,382,766株 | 20年3月期第1四半期 66,385,944株 |

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 1 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。
- 2 平成20年5月9日公表の業績予想を修正しておりません。
本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。世界経済・競合状況・為替・金利の変動等にかかわるリスクや不安定要因により実際の業績が記載の予想数値と大幅に異なる可能性があります。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期におけるわが国経済は、原油価格をはじめとする原材料価格のさらなる高騰やサブプライムローン問題を背景とする米国の景気後退懸念、株式・為替相場の変動、また、ガソリンや生活必需品の相次ぐ値上げで個人消費の伸びが鈍化するなど景気の減速感が強まりました。

建築業界におきましては、個人所得の伸び悩みや設備投資の鈍化、低調な公共投資などを背景に住宅・非住宅とも総じて厳しい状況で推移いたしました。

このような経営環境にありまして当社グループは、市場の低迷を打開するため営業活動の強化や新商品の開発に積極的に取り組むとともに、資源価格の高騰に対処するため、グループをあげて生産効率の向上、コスト削減、経費削減に努めました。

(化成品セグメント)

環境配慮型商品である超低VOC（揮発性有機化合物）品で作業性を向上させた弾性接着剤や土木改修用途向けエポキシ樹脂は好評でしたが、合板・集成材用途向けや塗床材・塗壁材などは市況の低迷により苦戦を強いられました。なお、当セグメントは、原材料価格高騰の影響を受け、収益が圧迫されるなど厳しい状況が続きました。

(建装材セグメント)

メラミン化粧板と色・柄を連動させた粘着剤付塩ビフィルムシートは高い意匠性や施工性が評価され商業施設を中心に売上げを伸ばすとともに、素材感を活かした不燃材商品が病院・老人保健施設、学校などで好評でした。しかし、当セグメントは店舗、商業施設や住宅市場の低迷を受け苦戦を強いられました。

(住器建材セグメント)

メラミン化粧板を使用した「メラフュージョンシリーズ」などのインテリア建材は、新設住宅着工件数減少の影響もあり厳しい状況で推移いたしました。また、リフォーム市場強化のため、短納期対応商品の拡充や不燃化粧材「セラール」のキッチン以外への用途拡大、カウンターのニッチ部位への商品提案などに努めましたが、当セグメントは住宅市場の低迷もあり厳しい状況が続きました。

(電子セグメント)

プリント配線板は、高速伝送・電磁波障害対策などの分野で高付加価値設計が高い評価を得ることができたものの、国内半導体需要の落ち込みをカバーするには至りませんでした。電子材料は、タッチパネル用ハードコートフィルムや携帯電話端末用インサートフィルムの量産により売上げを伸ばすことができました。

(その他セグメント)

有機微粒子は、プロジェクションテレビ向けの光拡散剤用は苦戦いたしました。化粧品や塗料などの用途向けは堅調でした。

この結果、当第1四半期の連結業績は、売上高20,486百万円（前年同期比9.2%減）、経常利益1,522百万円（前年同期比24.6%減）、四半期純利益841百万円（前年同期比28.5%減）となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期末の総資産は前連結会計年度末に比べ2.3%減少し、86,087百万円となりました。主な資産の減少は「受取手形及び売掛金」が2,318百万円減少したことなどによるものです。負債は前連結会計年度末に比べ9.5%減少し、19,310百万円となりました。主な負債の減少は「支払手形及び買掛金」が1,244百万円減少したこと及び「未払法人税等」の納付等によるものであります。純資産は「剰余金の配当」により862百万円減少と「四半期純利益」841百万円の増加などにより前連結会計年度末に比べ32百万円増加し、66,776百万円となりました。

これらの結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ1.7ポイント上昇し、76.8%となりました。

